

防災

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)

〈主な派遣実績〉			隊員数 (人)	のべ人数 (人・日)
R4年	8月4日からの大雨		41	117
R4年	台風第14号		2	4
R4年	鳥インフルエンザ		2	2
R5年	1月24日からの大雪		64	116
R5年	奈良県十津川村長殿での土砂崩落		3	4
R5年	台風第2号及びそれに伴う前線活発化による大雨		14	20
R5年	兵庫県南あわじ市における豚熱		1	1
R5年	台風第7号		17	19
R5年	奈良県下北山村国道169号での土砂崩落		14	20
R6年	能登半島地震		316	2198
R6年	能登半島大雨		58	383
R7年	奈良県川上村白屋地区林野火災		2	2
R7年	福井県大野市上半原国道158号での土砂崩壊		4	4
R7年	カムチャツカ半島付近の地震による津波		2	2
R7年	鳥インフルエンザ		2	2
R8年	1月21日からの大雪		68	131

災害対応



被災状況調査
【令和4年8月4日からの大雨】



給水支援
【令和6年1月 能登半島地震】



防災訓練
【防災通信訓練】



被災状況調査
【令和6年9月 能登半島大雨】



災害時乗員保護
【令和8年1月21日からの大雪】

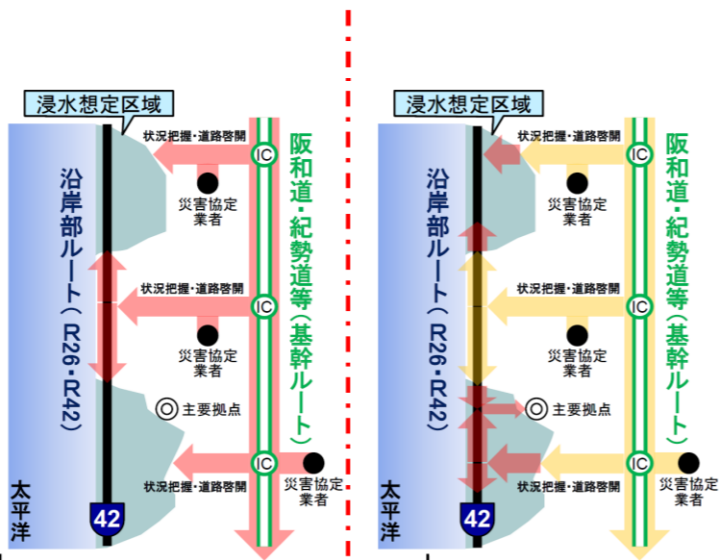


防災教育
【防災教育授業】

防災訓練・教育

【道路啓開計画】

■「和歌山県道路啓開計画(R7.1改訂版)」では、津波被害想定をもとに、緊急輸送道路ネットワーク等を考慮し、優先的に啓開すべき道路を『啓開ルート』として選定
 ■人命救助を目指した救助・救援ルートを確保するため『道路啓開』の段階目標を設定
【STEP1⇒発災後、24時間以内概ね完了目標】 基幹ルート、及び沿岸部への進出ルート等(浸水想定区域外)を確保
【STEP2⇒発災後、48時間以内概ね完了目標】 津波警報解除後、主要拠点(市役所等)への進出ルートを確保



【地震津波発生時における応急活動】

■発災後速やかにヘリやCCTV等を用いて情報収集を行う。また、TEC-FORCEを被災地に派遣し、被災状況調査を行う。津波浸水地域では排水ポンプ車による排水活動を関係機関と連携して実施。

情報収集(ヘリ)
被災状況調査(ヘリ)
排水ポンプ車(ヘリ)

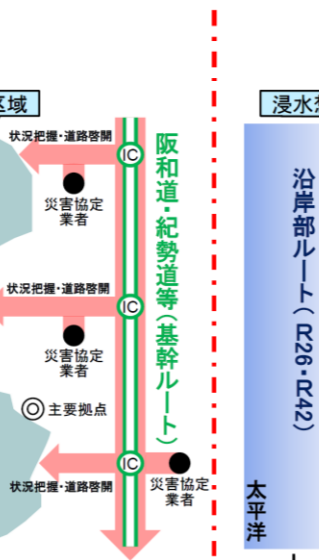
凡例
想定津波
7
6.5
6
5
津波浸水想定区域

南海トラフの巨大地震・津波等に対する取り組み

【直轄国道の被害想定】

	浸水延長	橋梁の重大な損傷	海岸擁壁の重大な損傷	ガレキの堆積
和歌山県	約100km	53橋	約20km	約30km

和歌山・紀南河川国道事務所調べ 平成26年5月現在



【泉北港堺2区基幹的広域防災拠点】

■当該防災拠点は、南海トラフで発生する地震・津波等による大規模災害が発生した際に、「救援支援物資の中継・分配機能、海上輸送支援機能、広域支援部隊の集結地・キャンプ機能、災害医療支援機能」等の重要な役割を担うとともに、平常時は市民の憩いの広場として利用。

緑地 (面積27.9ha)
耐震強化岸壁 (水深7.5m、延長130m)
臨港道路 (延長3.5km)

インフラDX

インフラ分野のDX (Digital Xformation) の推進

データとデジタル技術を活用し、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革するとともに、業務、組織、プロセス、建設業や職員の働き方を変革し、安全・安心で豊かな生活を実現すべく、取組みを推進します。



近畿地方整備局におけるインフラ分野のDXの取り組み

行政手続きなどサービスの変革

行政手続き等の迅速化

- ◆ 三次元管内図を活用した河川管理の効率化・高度化
- ◆ 建築基準適合判定資格者等の登録申請のオンライン化



暮らしにおけるサービス向上

- ◆ 河川現況台帳デジタル化による河川管理の効率化・高度化
- ◆ 建設産業関係手続のオンライン化



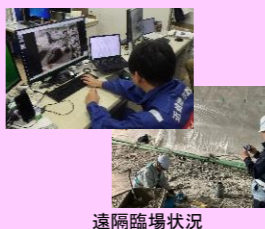
暮らしの安全を高めるサービス

- ◆ 阪神港におけるCONPASの導入によるコンテナゲート処理の効率化

現場の安全性や効率性を向上

安全で快適な労働環境を実現

- ◆ 無人化施工による安全性の向上
- ◆ リアルタイムデータ活用によるTEC-FORCE活動の迅速化
- ◆ 災害時の危険箇所調査の迅速化



AI等の活用による作業効率化

- ◆ BIM/CIM活用による建設生産システムの効率化・高度化
- ◆ 通信不感地帯での遠隔臨場による監督検査
- ◆ CCTVのAIカメラ化による交通障害の自動検知
- ◆ 地下埋設物性情報を3D化で把握・電子化
- ◆ 全自動飛行で施設点検(砂防)の高度化・省力化
- ◆ 河川管理用UAVを活用した河川巡視・点検の実装(SRSの整備)



デジタル化で効率的に技能を習得

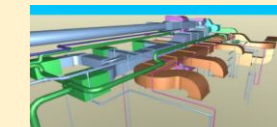
- ◆ 3次元施工データの作成マニュアルの活用

詳しくはこちら →

仕事のプロセスや働き方を改革

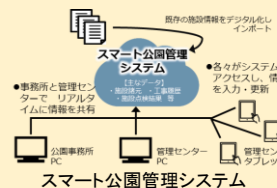
業務プロセスの変革

- ◆ 営繕事業におけるBIM活用
- ◆ RPAを活用したワークスタイルの改善
- ◆ 用地業務のDX化推進



点検・管理業務の効率化

- ◆ 被災状況調査から災害復旧工事へのシームレス化
- ◆ 都市公園台帳等のクラウド化による公園管理の効率化・高度化



人材育成支援

- ◆ 3次元データやデジタル技術等を活用できる人材育成(整備局・自治体など)
- ◆ RPAを活用したワークスタイルの改善
- ◆ 地方公共団体によるまちづくりDXの取組の支援
- ◆ 遠隔検査を活用した自治体支援

建設業の働き方改革推進

土木工事書類作成スリム化ガイド



工事書類のスリム化を図るとともに、受発注者間における資料作成の役割分担を明確化することで書類作成に要する時間を縮減し働き方改革を推進する。

受発注者コミュニケーションガイド



受発注者間のコミュニケーションを図ることで、適切な設計変更や協議の迅速化など適正かつ円滑な工事請負契約の履行を行い働き方改革を推進する。

業団体へのアンケート結果等を反映した改訂版を作成し、受発注者双方の更なる働き方改革を推進します。

インフラ分野のDXを推進するための人材育成

近畿インフラDX推進センター(大阪府枚方市)を拠点とし、デジタル技術に関する知識や技術を習得することで、BIM/CIM、ICT施工、3次元データなどを活用できる人材育成に取り組んでいます。また、地方公共団体や企業等、官民の人材育成支援も行い、インフラ分野のDXの推進を目指します。

近畿インフラDX推進センターとは…

DXを推進する人材の育成と確保を目的に「育成」「体験」「情報発信」を行っています。

体験	学生、一般、外国人研修生向けのインフラDXの体験 > 遠隔、AI、VRなどのDX > 民間の最新技術、NETIS技術を動画により紹介
育成	国・地方公共団体、施工者向けに研修を実施 > BIM/CIMソフトを用いた3次元設計から施工管理 > 無人化、自動化施工体験と実務研修 > 3次元データに関する資格取得の支援
情報発信	ホームページ、SNS等で情報発信 > 企業が取り組む最新技術情報 > i-Con、BIM/CIMなどの取り組み > インフラDX大賞など地域建設業の取り組み